

日本の電子ジャーナルとオープンアクセスをめぐる現在と将来予測

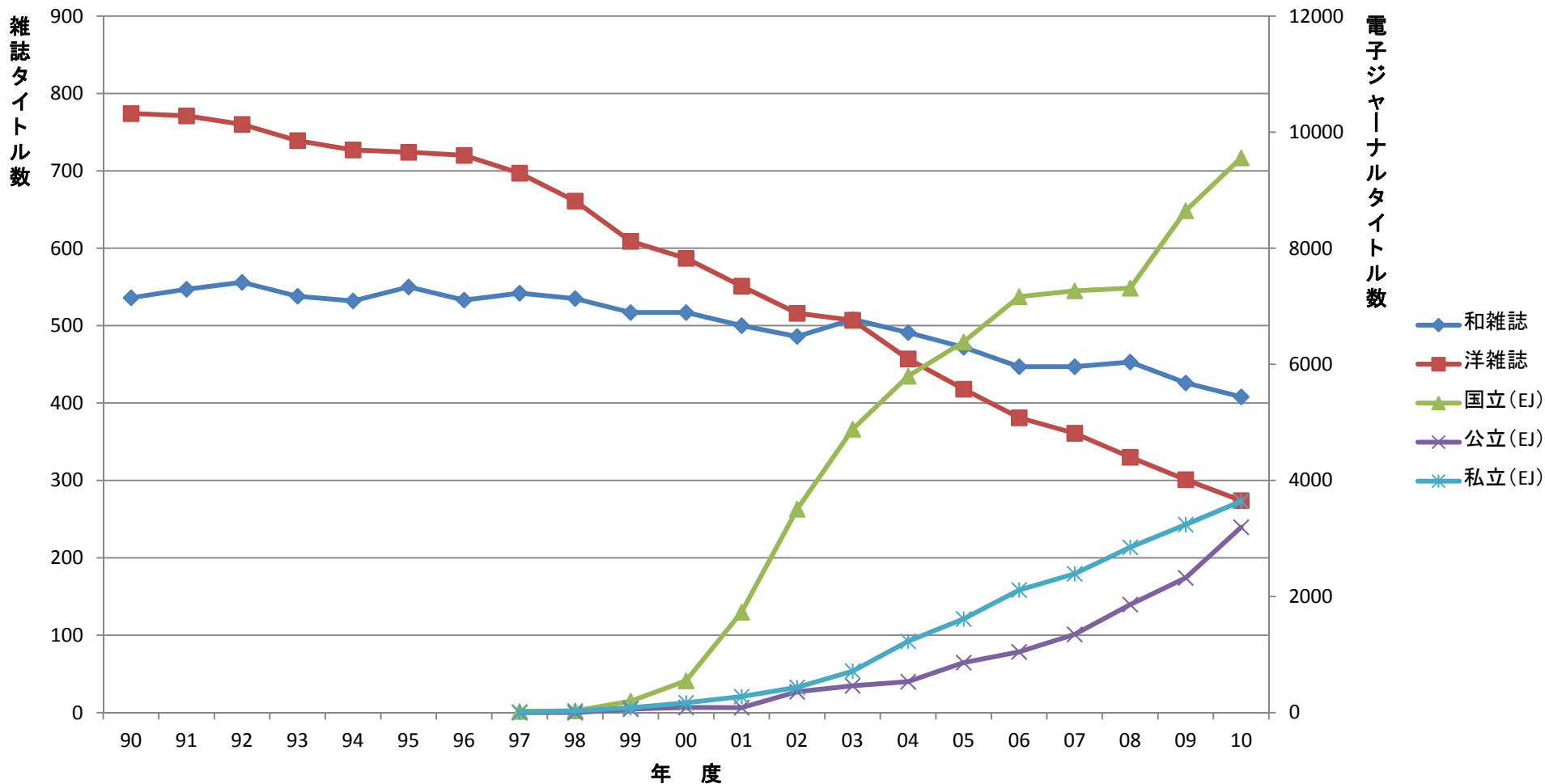
筑波大学附属図書館 関川 雅彦

sekikawa@tulips.tsukuba.ac.jp 029-853-2341

本日の内容

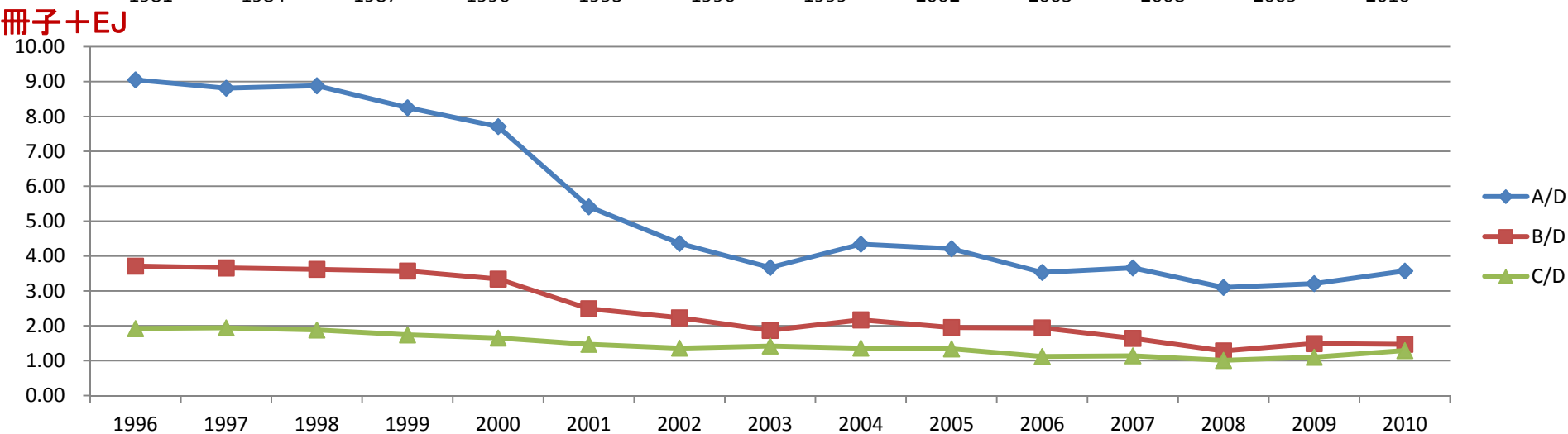
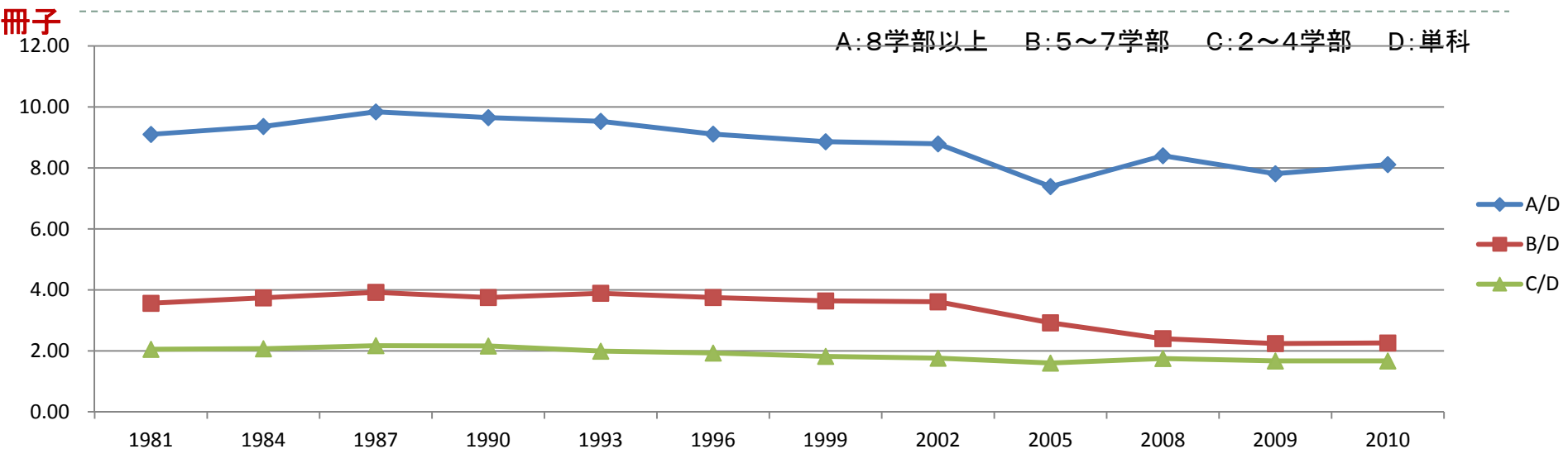
- 学術情報のアクセス環境の推移
- 資料購入費と大学総経費
- 契約面からみた電子ジャーナル
- オープンアクセスと図書館
- 学術情報のハブへ

購入雑誌数の推移と電子ジャーナルの導入状況



(大学図書館実態調査結果報告・学術情報基盤実態調査結果報告より)

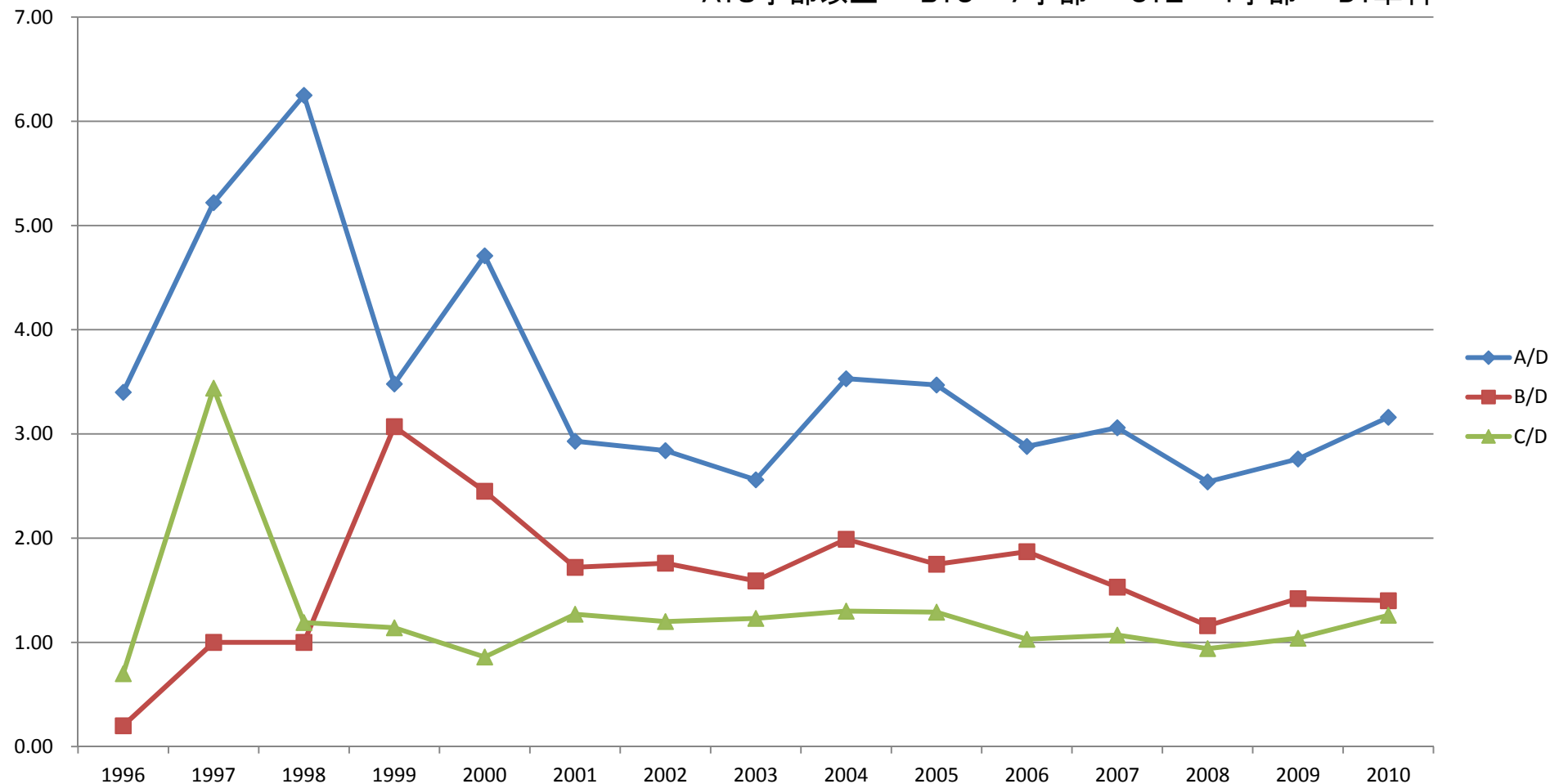
国立大学の規模による「情報格差」の推移



(大学図書館実態調査結果報告・学術情報基盤実態調査結果報告より)

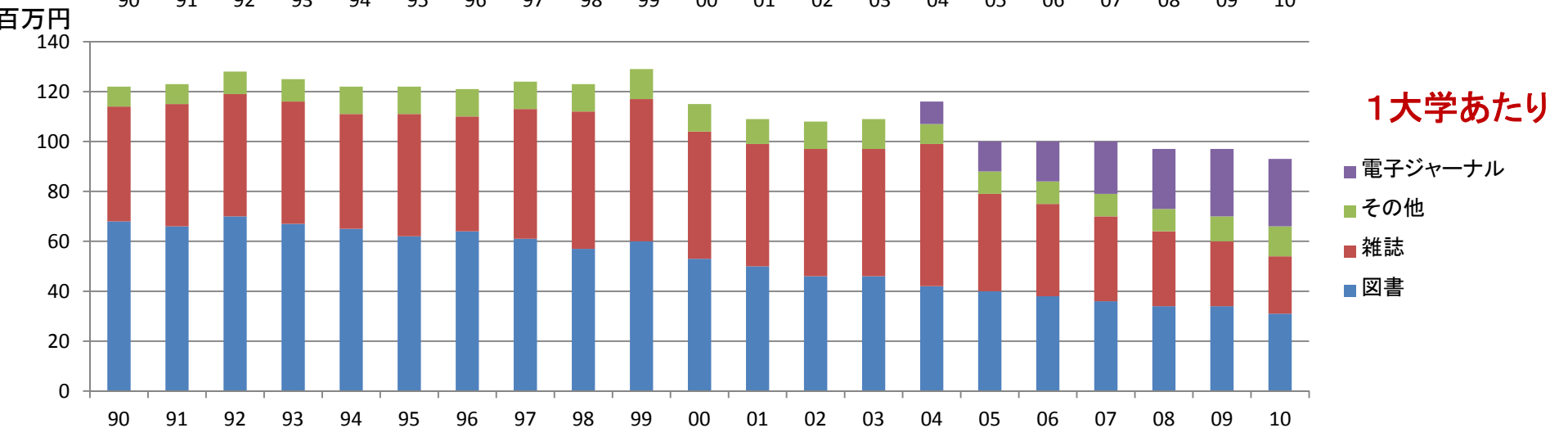
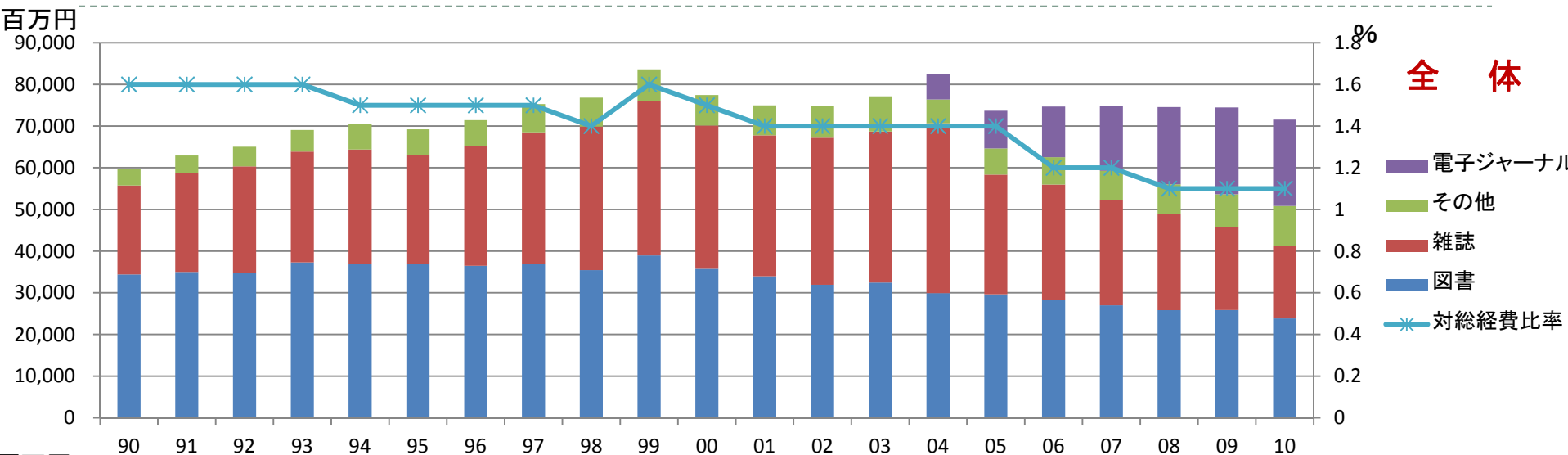
国立大学の規模別EJの比率の推移

A: 8学部以上 B: 5~7学部 C: 2~4学部 D: 単科



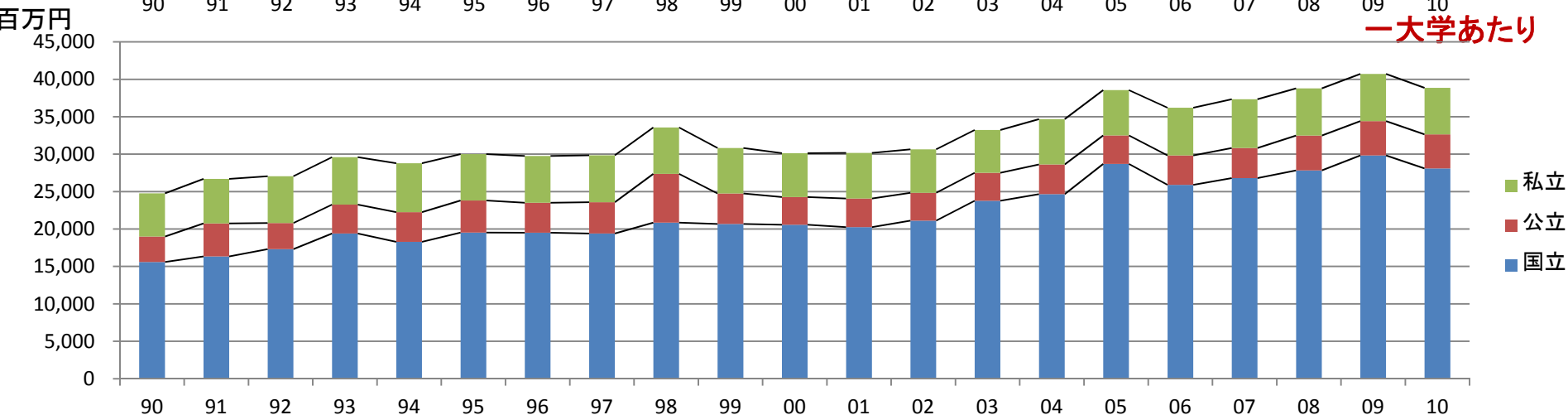
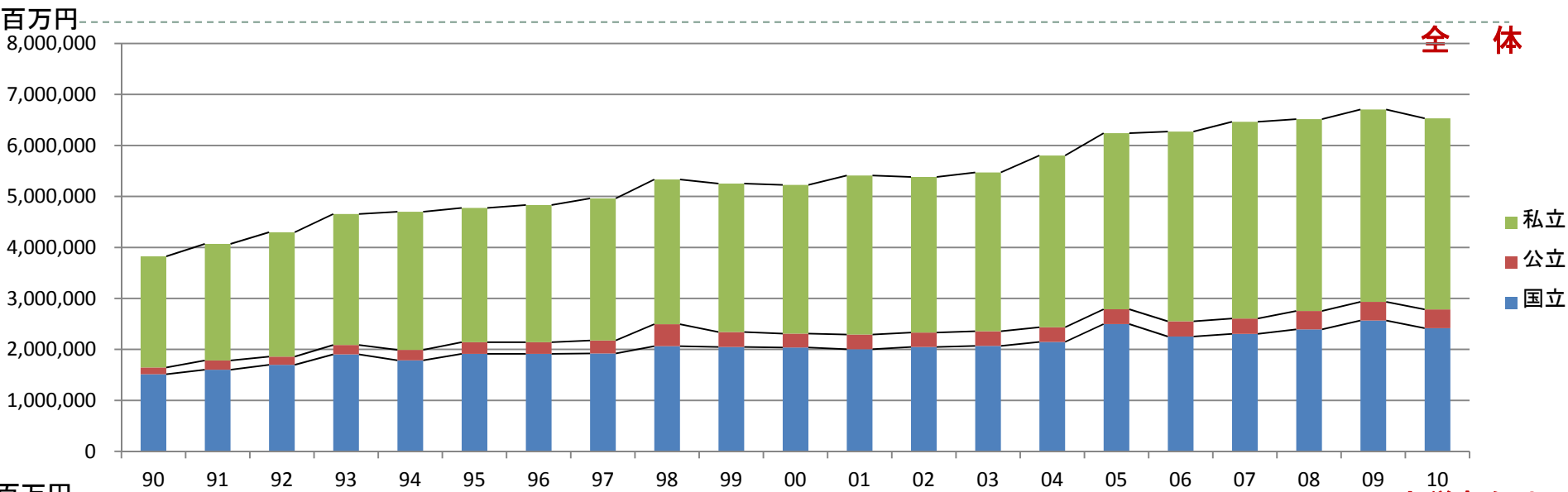
(大学図書館実態調査結果報告・学術情報基盤実態調査結果報告より)

大学図書館の資料購入費の推移



(大学図書館実態調査結果報告・学術情報基盤実態調査結果報告より)

大学総経費の推移

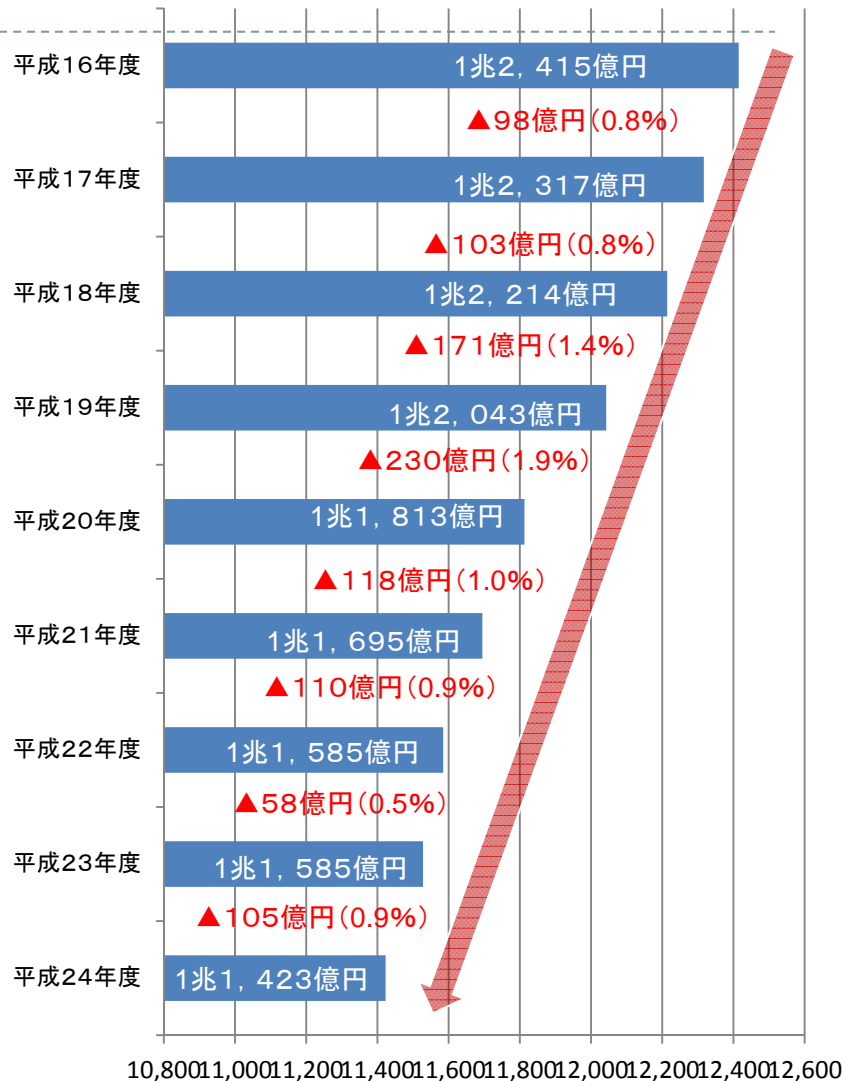


(大学図書館実態調査結果報告・学術情報基盤実態調査結果報告より)

平成24年度国立大学法人運営費交付金

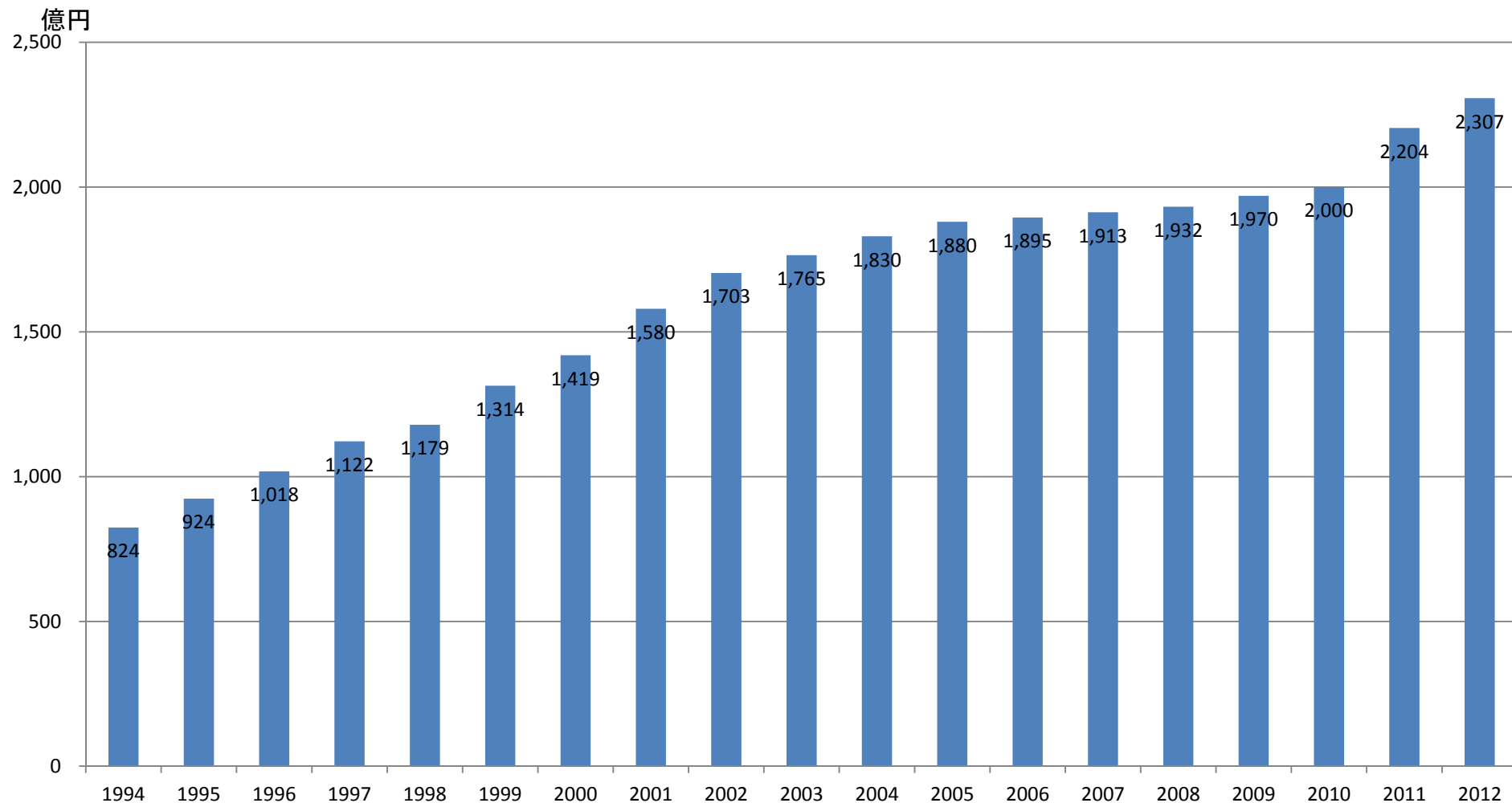
平成24年度	
大学名	予算額
1 東京大学	840
2 京都大学	565
3 東北大学	505
4 大阪大学	475
5 筑波大学	427
6 九州大学	420
7 北海道大学	379
8 名古屋大学	329
9 広島大学	258
10 東京工業大学	217
11 神戸大学	208
12 岡山大学	196
13 新潟大学	179
14 千葉大学	179
15 金沢大学	169
16 鹿児島大学	161
17 長崎大学	159
18 熊本大学	157
19 東京医科歯科大学	150
20 信州大学	144
21 愛媛大学	134
22 徳島大学	133
23 富山大学	130
24 岐阜大学	129
25 群馬大学	128
26 琉球大学	127
27 三重大学	122
28 山形大学	122
29 山口大学	121
30 鳥取大学	113
31 弘前大学	111
32 島根大学	111
33 佐賀大学	107
34 香川大学	105
35 秋田大学	100
36 高知大学	100
37 宮崎大学	99
38 大分大学	97
39 山梨大学	97
40 静岡大学	96
41 福井大学	95
42 横浜国立大学	85
43 東京学芸大学	85

大学名	予算額
44 岩手大学	84
45 茨城大学	72
46 北海道教育大学	68
47 東京農工大学	64
48 奈良先端科学技術大学院大学	62
49 大阪教育大学	62
50 埼玉大学	61
51 滋賀医科大学	58
52 宇都宮大学	58
53 一橋大学	56
54 旭川医科大学	56
55 浜松医科大学	55
56 北陸先端科学技術大学院大学	55
57 東京海洋大学	55
58 九州工業大学	53
59 電気通信大学	51
60 愛知教育大学	51
61 名古屋工業大学	48
62 東京芸術大学	47
63 お茶の水女子大学	47
64 京都工芸繊維大学	45
65 和歌山大学	40
66 長岡技術科学大学	40
67 豊橋技術科学大学	39
68 京都教育大学	38
69 福島大学	37
70 兵庫教育大学	36
71 鳴門教育大学	35
72 奈良女子大学	35
73 福岡教育大学	35
74 滋賀大学	32
75 東京外国語大学	31
76 上越教育大学	31
77 宮城教育大学	29
78 室蘭工業大学	28
79 帯広畜産大学	26
80 奈良教育大学	25
81 筑波技術大学	25
82 北見工業大学	24
83 政策研究大学院大学	20
84 総合研究大学院大学	19
85 鹿屋体育大学	15
86 小樽商科大学	14



科学研究費補助金の推移

(平成24年6月4日文部科学省報道発表より)

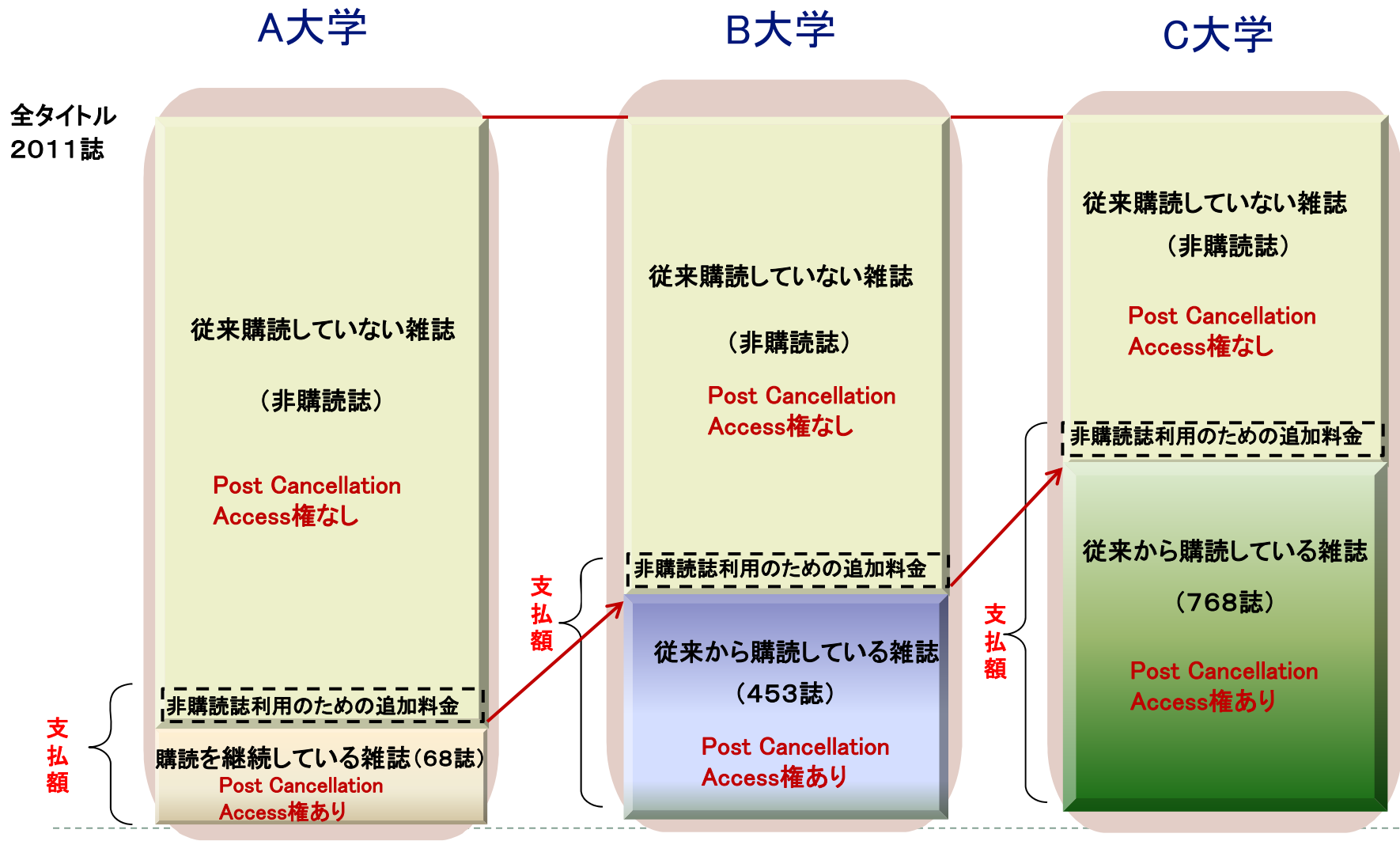


(平成22年度までは予算額と助成額は同額。平成23、24年度は助成額ベース)

学術雑誌をとりまく環境の推移

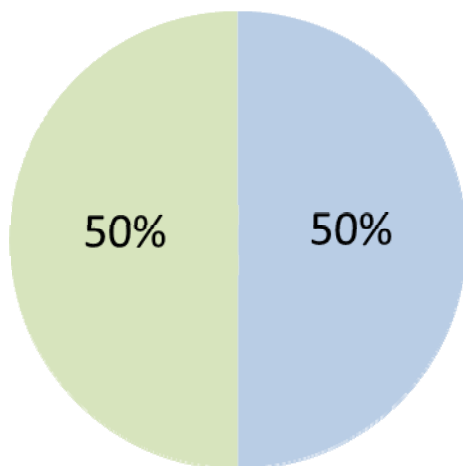
- 学術雑誌は冊子から電子ジャーナルへシフトし、アクセス可能タイトル数は増加している
- 大学間の学術情報へのアクセス環境の格差は縮小している
- 大学図書館の資料購入費は減少し続けている
- 大学総経費は実は減少していない
- 大学総経費に占める資料購入費の割合は低下し続けている
- 競争的資金(科研費)は増え続けている
- 資料購入費のうち雑誌(+電子ジャーナル)の金額はあまり変化していない

パッケージ契約 (Big Deal) の構造



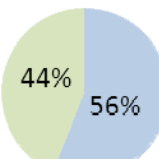
筑波大学におけるダウンロード数の購読比率

大手5社合計



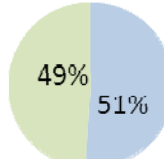
2011年度

Science Direct



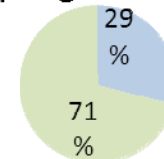
2,120タイトル
(購読487タイトル)

Wiley Online



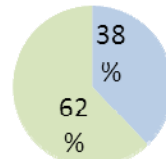
1,227タイトル
(購読324タイトル)

Springer Link



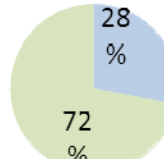
1,904タイトル
(購読191タイトル)

Oxford

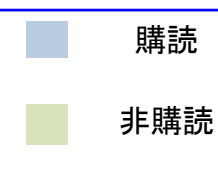


172タイトル
(購読63タイトル)

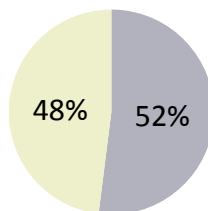
Cambridge



257タイトル
(購読50タイトル)

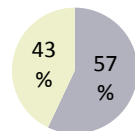


6社合計

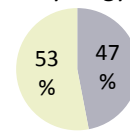


2007年度

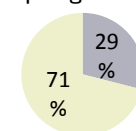
Science Direct



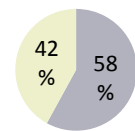
Synergy



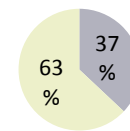
Springer Link



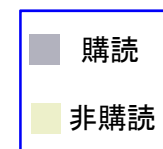
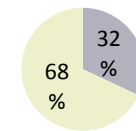
Inter Science



Oxford

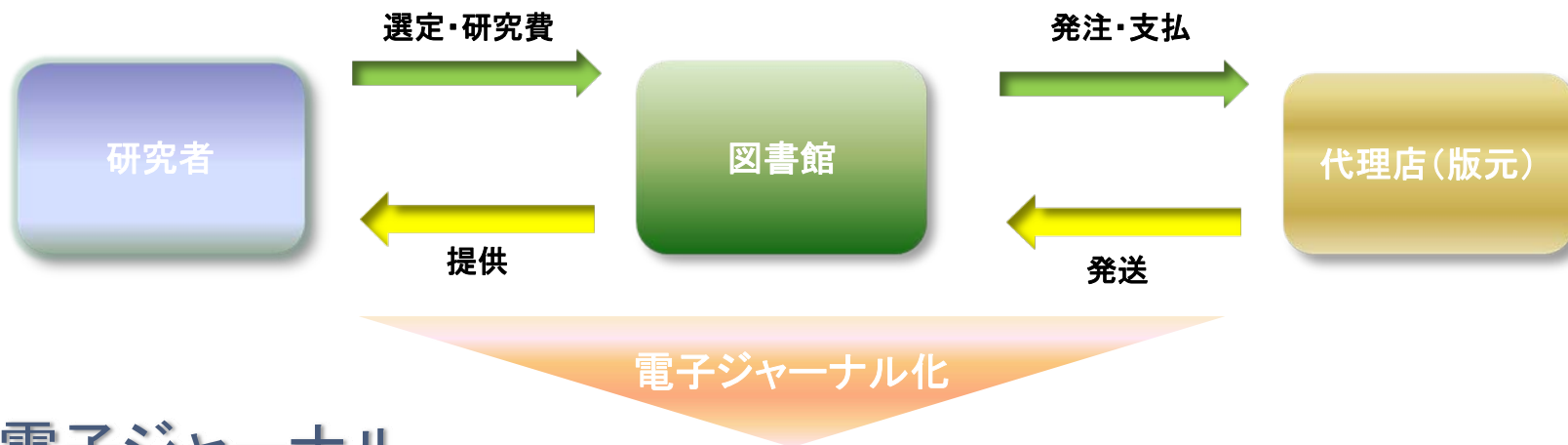


Cambridge



電子ジャーナル化に伴う図書館の役割

冊子



電子ジャーナル



電子ジャーナル化進展のカギ

電子ジャーナルの持つ特性

- いつでもどこからでも同時に利用

パッケージ契約 (Big Deal) の導入

- 冊子契約の時と比べてはるかに多くのタイトルにアクセス
- これまで利用できなかった (非購読) タイトルへのアクセス

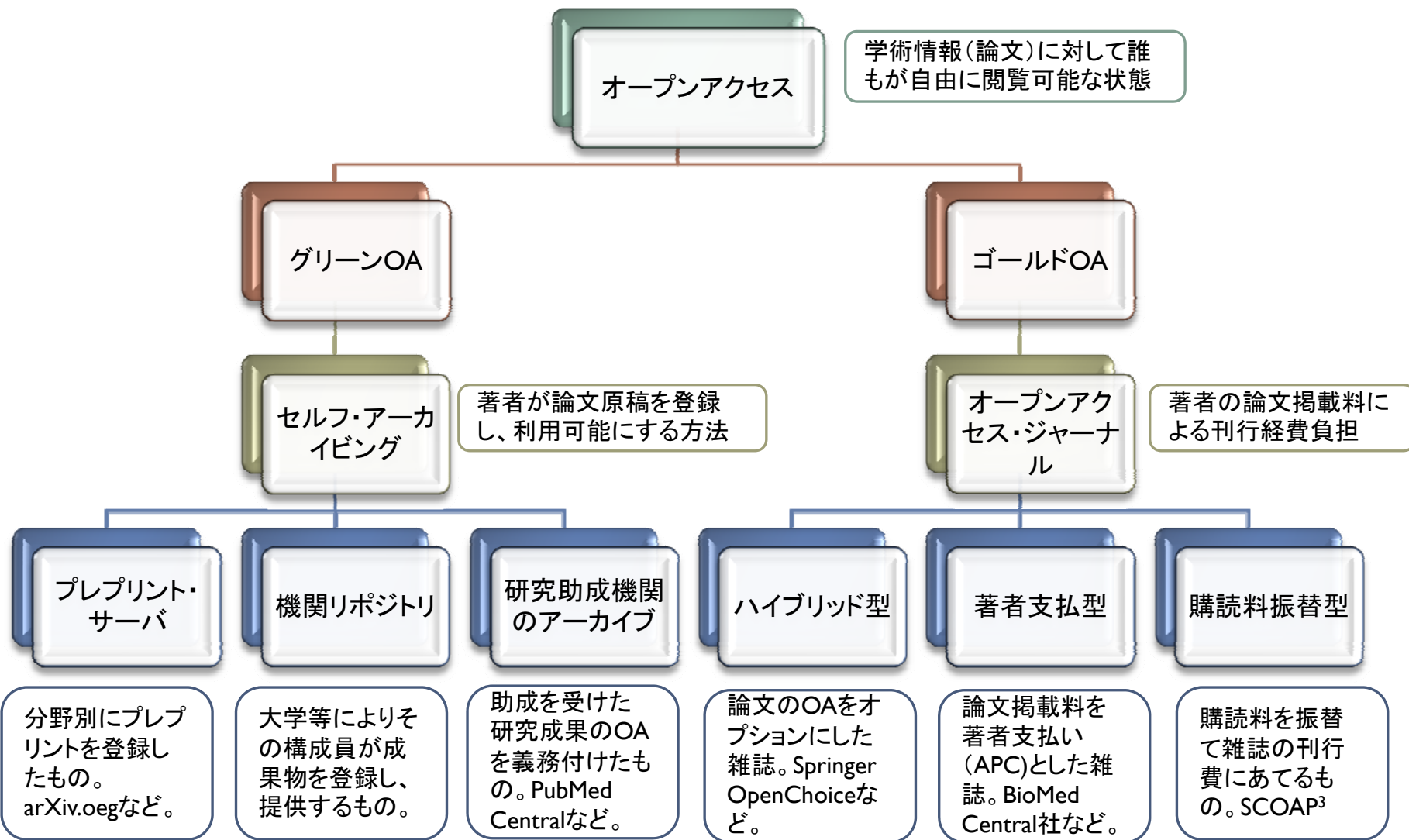
契約金額のベースにカレント・スPENDを採用

- 冊子契約額に一定額を上乗せした金額
- 一物多価の導入

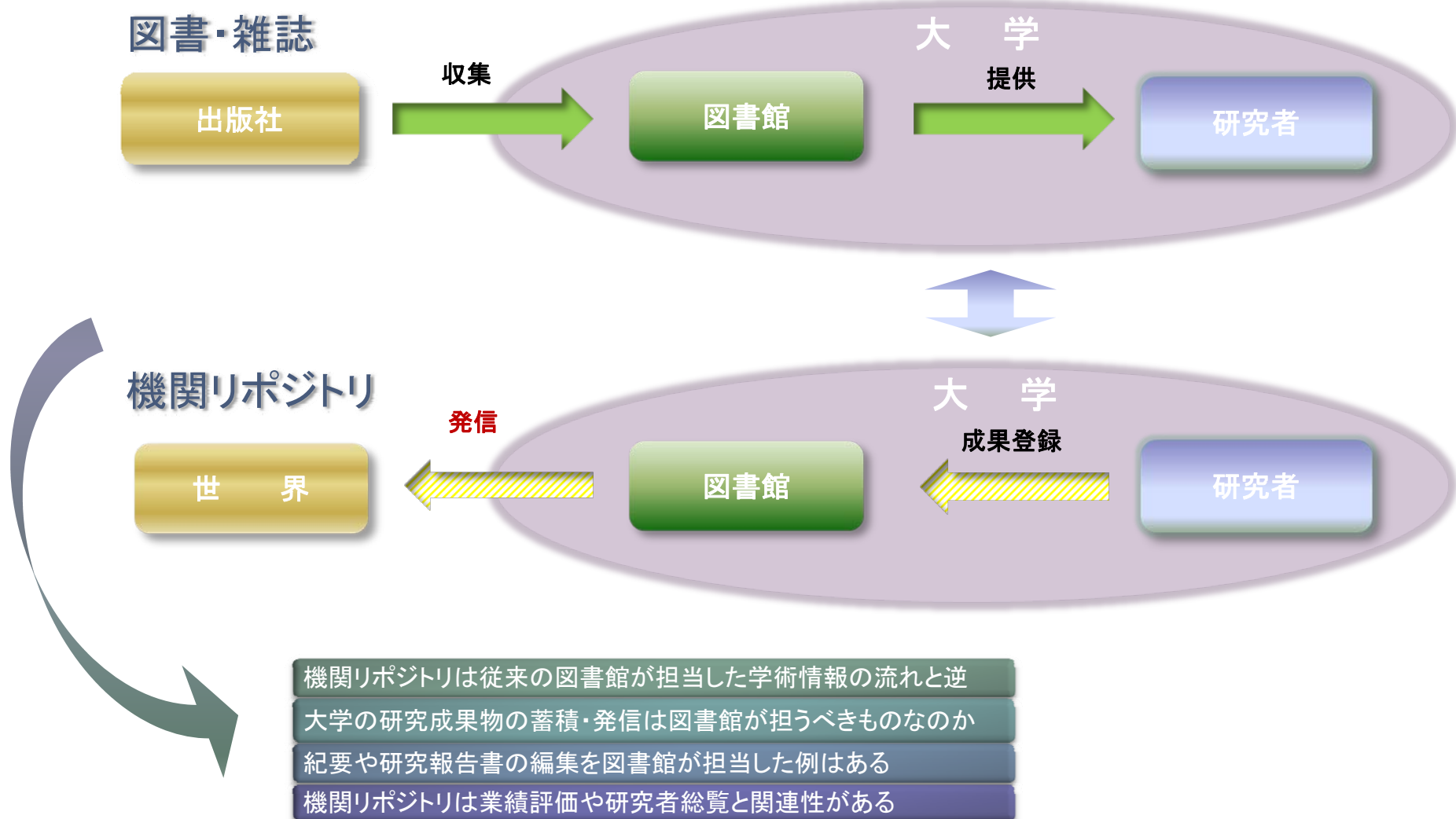
図書館がまとめて代理店 (出版社) と契約・支払

- 媒体が変わってもお金の流れは同じ (ただし共通経費化は進展)
- 契約条件は図書館 (コンソーシアム) が出版社と直接交渉

オープンアクセスのタイプ



機関リポジトリと図書館



Moving towards an open access future

<http://www.uk.sagepub.com/repository/binaries/pdf/library-OAReport.pdf>

概要

- 2012年4月26日に英国図書館で開催されたラウンドテーブルの議論をまとめてSAGE社が発表
- 参加者は英国、米国の図書館員その他、JISC Collections、北米研究図書館センター(CRL)、カタール財団などの専門家14名

テーマ

- 10年後のオープンアクセスの状況(機関リポジトリ、ゴールドOA等)
- OAの大学における研究、教育、学習への影響や図書館のサービスや役割への影響
- 大学や図書館の予算配分や管理への影響
- 大学によるOAに対する支援における図書館の役割
- 図書館自身が出版機能を担うべきか
- 図書館に必要とされる技術や能力はなにか
- 大学、図書館、学術出版社の関係が新しいビジネスモデルにおいてどうあるべきか

まとめ

- 購読から出版料負担へのシフトにより図書館予算の減少(OA予算の図書館の管理⇔APCの研究者の管理)
- 研究者のOAに対する不信や誤解に関し大学や研究者への図書館のコミュニケーションの役割
- メタデータの管理や資料保存の際の図書館員の技術は有効だが個別の図書館の意味の希薄化
- 図書館の役割の一部は意味を失い変化を迫られるが、大学の中で引き続き重要な位置を占める(?)

学術情報を介した学内のハブへ

